

## ハドロサウルス科恐竜を発見！！

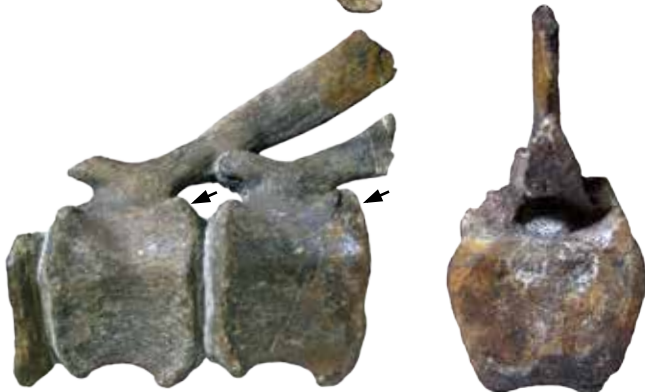
骨格の残りが埋まっている可能性も！！！！

追加の発掘調査を9月から開始



20 cm

採集済みの標本の全体像



5 cm

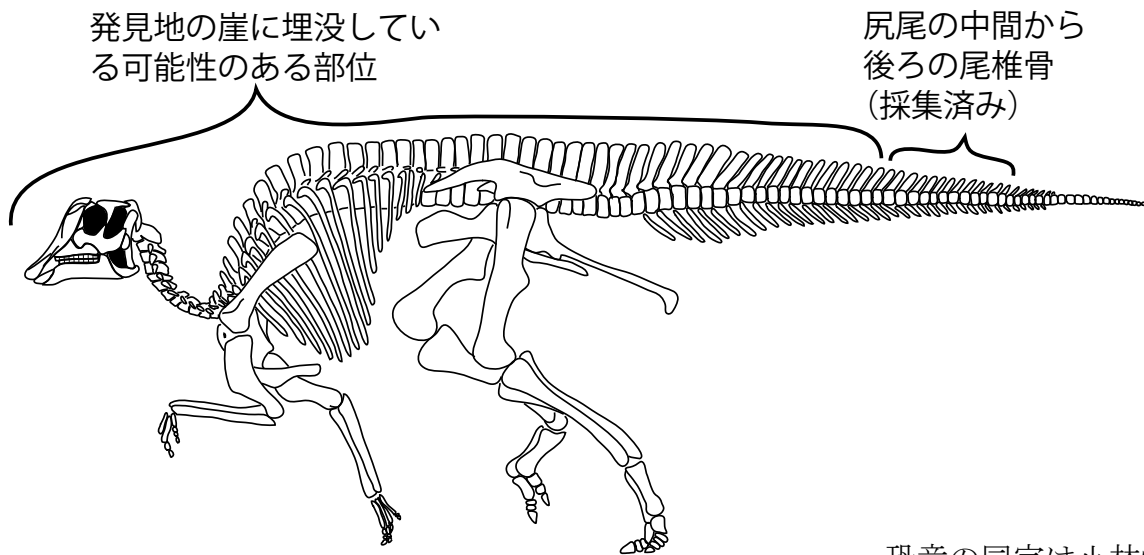
尾椎の一部（左）と関節面（右）。関節面が平らで、断面が六角形状であるので、ハドロサウルス科のものだと考えられる。矢印は他のハドロサウルス科のものよりも大きく発達している突起。

2003年に穂別町（現・むかわ町穂別）在住の堀田良幸氏が穂別地域の白亜紀マーストリヒチアン期最前期（約7,200万年前）の地層が露出している沢沿いの崖から発見し、穂別博物館に寄贈した脊椎動物化石について、2010年から化石のクリーニング（整形、余分な岩石を取り除くこと）をしたところ、ハドロサウルス科（鳥盤目 鳥脚亜目）恐竜とみられる化石であることが分かりました。この部位は横突起がないことから尻尾の中間から後ろの尾椎骨（びついこつ）であると考えられ、それらの大きさから全長は7～8 mだと考えられます。この標本には椎体の後方の関節面の背面側にある突起（写真矢印）が他のハドロサウルス科のものよりも大きいという特徴があります。このほかに他の恐竜との明らかな違いが見つければ、新しい恐竜として学名が付けられる（新属や新種に指定される）可能性もあります。

北海道には恐竜が生きていた時代の地層が広く分布しますが、そのほとんどが陸から遠く離れた海の地層なので、陸上に生息していた恐竜が化石として見つかることは極めて稀で、これまでにわずかに3個体（産地：中川町、小平町、夕張市）しか発見されていません。今回発見されたものも陸から遠い海の地層から産したのですが、13個もの脊椎骨がつながったまま産したので、恐竜が腐敗してバラバラになるよりも早く地層に埋まったものだと考えられます。

日本国内では、これまでに25ヶ所ほどの産地から恐竜の体化石（足跡化石を除く）が発見されていますが、それらの多くは断片的な標本で、全身の大部分あるいは数割が発見されているものは数例にとどまります。そのため、今回発見された標本は非常に貴重なものです。

2011年の現地調査において発見場所である崖で同一個体のものと考えられる胴体側（体の前方）の脊椎骨を一つ確認しました。このことから採集地には骨格の残りが埋まっている可能性があります。9月から北海道大学と共同で追加の発掘を行う予定です。



ハドロサウルス科恐竜の骨格  
(イラストはニッポノサウルス)

恐竜の同定は小林快次先生  
(北大博、准教授)による。  
(学芸員 西村智弘)

発掘現場とその周辺は道有林・民有地にあたり、それぞれから発掘関係者以外の立ち入りが禁止されています。ご了承ください。

ミニ展示

**採集済みの標本を展示します**

～12/1(日)

穂別博物館特別展示室

(常設展示観覧料のみで見学可)

標本の展示と発掘風景の紹介

**発見!! 残りを発掘!!!**

**穂別産ハドロサウルス科恐竜化石**

【公共交通機関による来館案内】(バス停「穂別中央」～博物館は徒歩約10分)

往路(札幌・苫小牧方面▶博物館)

・新千歳空港 10:40 ①▶穂別中央 12:10

・札幌駅 8:10 ②▶むかわ四季の館 9:35 -(乗換)- むかわ四季の館 9:41 ④▶穂別中央 10:45

・苫小牧駅 8:00 ③▶鶴川駅前 8:29 -(乗換)- 鶴川駅前 9:39 ④▶穂別中央 10:45

帰路(博物館▶札幌・苫小牧方面)

・穂別中央 16:15 ①▶新千歳空港 17:40

・穂別中央 15:40 ④▶鶴川駅前 16:45 -(乗換)- 鶴川駅前 17:24 ③▶苫小牧駅 17:54

①道南バス 新千歳空港直行便(1,470円) 前日の16時までにて予約(0145-45-2284)

②道南バス 高速ペガサス号(2,340円) 事前予約(0146-42-1231)

③ JR 日高本線(620円)

④道南バス 穂別鶴川線(200円) ※各料金は大人1人分

**休館日**

2013年

8月 無休

9月

2(月) 9(月)

17(火) 18(水)

24(火) 25(水)

30(月)

**特定入館日**

(町民入館無料日)

16(月・祝)